

平成 29 年 8 月月例記者会見

会見記録

1. 生駒市ワーク・ライフ・コミュニティ・バランス推進宣言式

【 概要説明 】

市担当者 ワーク・ライフ・コミュニティ・バランス推進宣言の概要について、少しご紹介させていただきます。

現在の自治体は、人口減少や少子高齢化などにより厳しい経営が求められているところでございます。その中で、業務量の増加による健康不安や、仕事と子育て、または介護の両立に悩む職員が増えてきております。そこで、職員 1 人 1 人が健康でいきいきと働き続けることができ、また、安心して仕事と子育て、介護との両立ができ、自らの能力開発を行って地域活動にも積極的に参加するために、この度、生駒市と生駒市職員労働組合と共同でワーク・ライフ・コミュニティ・バランス推進宣言を行うことになりました。

今後は職員組合とお互いの協力関係をより強化にし、時間外削減の取組や市職員の地域活動の推進をしていきたいと考えているところでございます。具体的にはノー残業デーを毎週水曜日にしておりますけども、ノー残業デーに労使ともに共同で見回りに行ったり、勉強会を行ったり、地域貢献活動の報告会を行う等を予定しております。

なお、この宣言ですけども、昨年 12 月に実施しました「イクボス宣言」それから今回の「ワーク・ライフ・コミュニティ・バランス推進宣言」の 2 つの宣言を行ってる県内自治体では初めてということになります。

【 署名 】

【 写真撮影 】

【 市長あいさつ 】

市長 お手元に「生駒市ワーク・ライフ・コミュニティ・バランス推進労使宣言」という 1 枚紙があると思います。これが今回の趣旨とポイントを端的にまとめた 1 枚紙でございますので、こちらで少し説明させていただきたいと思っております。

今回、職員労働組合とこのような形の労使宣言を出させていただくことになりました。組合と執行部側というのは、もちろん労使協議ということでいろんな交渉・折衝をやる間柄ではございますけれども、それだけではなくて、特に生駒市は人づくりということで我々執行部側も力を入れております。採用・研修・残業の削減、そのようなところに関して特に言えば、組合側も執行部側も協力してやっていたところが確実にあるだろうという事で、執行委員長と人事課、組合の関係者と色々と調整をしていただいて、今回の宣言に至ったものでございます。

ポイントは 2 つでございまして、1 つは実はこういう労使の宣言というのは奈良県で生駒市が初めてというわけではございません。奈良県とか奈良市、他にもやっている自治体はいくつかございますが、見

てると協定の中身自体を見ると、協定というのはそういうものというのもあるんですけど、非常に一般的な話がふわっと書いてあって、何をやるのかなというのがちょっと見えてこない所もあります。実際、協定を元に動いてる事もあるのだとは思いますが、生駒市の協定は今回に限らずですけども、この間も南都銀行さんとやりましたが、具体的なところをイメージしてから協定を結ぶというのが我々のポリシーですので、今回も組合の方と色々話をしまして、とにかく具体的なことで協調して出来る事というのをイメージしてお互いで納得した形で協定を結んでおります。これが1点目で、また後ほど詳しく説明します。

2点目がコミュニティ活動、地域活動の推進でございます。先日、いわゆる副業の促進ということで報酬を得て地域貢献活動を行う場合の基準というものを発表させていただきまして、非常に全国でも公務員・公務員以外問わず非常に大きな反響がございました。生駒市のモットーとして、いわゆるベッドタウンと言われていて、ベッドタウンを裏返すと仕事して家に寝に帰ってくるだけみたいな町も悪く言えばそういう町でございますが、ベッドタウンから進化をして、やはりワークライフバランス・家庭の事もしっかりとプライベートもしっかりとやろう、ただ生駒市はそれにとどまらずに、第3段階目を目指してまして、ワークもライフもそして地域活動・コミュニティもしっかりとやっていけるのが、生駒市であります。ワークライフバランスを頑張るって目指してますという町は多分たくさんあるんですけども、ワークライフにコミュニティもきちんとやっていくのが生駒市でございます。なので、そういうような趣旨を副業の基準の方にも込めたわけですけども、今回、労働組合の方にも趣旨をご理解いただいて、そのコミュニティの部分もしっかりと進めていくということで、今回の労使宣言に折り込んでいます。この点がやはり1つ大きなポイントかと思っております。

具体的な取組の推進というのが、その下でございます。このあいだの7月の七夕の時に7時に消灯してという取組をしました。天の川をみんなで見ましようみたいな事をしましたけども、その時に労使共同で見回りをして、7時でみんなちゃんと帰ってくださいねということをやりましたが、そのようなノー残業デーの見回りを労使でやるということ。あとは、組合の方からもご提案いただきましたけれども、個人のいろんな記念日というのがそれぞれ職員あると思います。そういう時に、しっかりと休みを取るといような事。共同勉強会と書いておりますけども、これ実際、人事評価に関して1度組合側が連れてきてくださった先生の勉強会に私も参加をしてやったりもしておりますけど、そのような勉強会をしっかりとこれからもやっていきたいということです。先程ございましたイクボス宣言しておりますので、その研修をしっかりとやっていくと。このような具体的な中身を今想定しております。これ以外のものも出てくると思いますが、そういうのを具体的にしっかりとやっていくというのが1点目のところでございます。

2点目がコミュニティ活動です。先程申し上げましたが、先日発表した副業に関する基準というものに基つきまして職員が地域活動をしていくということ、積極的に推進をしていくということです。誤解無きように申し上げますと、土曜日・日曜日ゆっくり体を休めたいという人に無理矢理「副業しろ」とか「地域活動しろ」という事ではございません。もちろん参加したい地域活動に参加するという方を応援するとい趣旨ではございますが、そこは休暇、もちろん体を休めるといようなことも個人の自由でございますし、それを強制的に「副業してくれ」ということではございません。(2)がポイントかなと我々思ってますけれども、副業の基準を設けたりして整備は制度的には進めていますけど、具体的にはどういう風な事をするのかというのが、まだイメージできていない職員もおりますので、実際に生駒

市、また生駒市外でも地域に飛び出して活動しているような方のお話を聞いたりでありますとか、もちろん副業という形で何か報酬を得て活動しているような方の話を聞きながら、やりがいであるとか、そういう活動をする時に気を付けるべき点であるとか、そういうような話を聞くような報告会というようなものも、できれば組合と我々と協力して一緒に、こういう活動、報告会みたいなものをしてほしいのかなというふうには思っております。それ以外に、ボランティア休暇でありますとか、まさに市町村職員は地域の教育・PTA活動とか自治会活動とか消防団活動をしている者もおりますし、そういう風なところもしっかりとサポートしていく、こういうような内容を考えております。

具体的な公的な取組をしっかりするという点と、このコミュニティ活動・地域活動というところを副業の基準と合わせて具体化していく、この2点をポイントと思っておりますので、何卒よろしくお願いたします。

【 生駒市職員労働組合執行委員長あいさつ 】

生駒市職員労働組合執行委員長 私たち生駒市職員労働組合は、職員1人1人が健康でいきいきと働き続けることができ、安心して子育てや介護など家庭生活を送ると共に、自らの能力開発を図り、地域活動にも積極的に参加するなど、仕事以外の生活を充実することが出来るワーク・ライフ・コミュニティ・バランス社会の実現を目指しておりました。2010年に男女共同参画基本計画に基づく第3次男女共同参画基本計画が策定され、同年、仕事と生活の調和「ワーク・ライフ・バランス憲章」と、こういう指針が出たことから、男女共同地域社会の実現のためワーク・ライフ・バランス推進宣言の労使での締結に向け、長年にわたり交渉や協議を行った結果、ようやく「ワーク・ライフ・コミュニティ・バランス推進宣言」労使で締結すると言う運びになりました。ワーク・ライフ・バランスの実現には、1つ今期で全職員が実現に向けて実行する。2、前向き、全員参加で「自分だけは例外」を許さず、忙しいを言い訳にしないで職員の「ワーク・ライフ・コミュニティ・バランス」を実現するという気持ちを変えることが大事です。職員全員に理解してもらい、実現しやすい環境作りとなりますように取組を行っていききたいと思います。

【 質疑応答 】

記者 具体的なデータを教えていただきたいのですが、7月31日現在の職員数は。

市担当者 正規職員数につきましては817名。

記者 組合の加入資格は。

市担当者 管理職以外の職員になります。

記者 管理職はどこまで管理職。

市担当者 課長補佐級以上は組合に入れません。

記者 そうすると、主任級。

市担当者 係長までです。

記者 臨時職員は加入できるのか。

組合担当者 臨時職員も加入することは出来ますけども、出来るというだけで庁内の方で今入っている方はいないです。

記者 組合員数は。

組合担当者 約510人。

記者 組織率は。

組合担当者 90%は超えています。

記者 係長以下が何人。

市担当者 係長以下でも管理部門と例えば秘書課の職員とか、企画の職員とか、一部は非組合の職員もおります。

記者 イクボス宣言をしている自治体というのは。

市長 県内の市町村では生駒市だけです。

記者 イクボス宣言しているのは生駒市だけですか。それなら2つ宣言するのも。

市長 私も聞いていてそう思いましたけど、2つやっていることに意味があるということですね。

記者 「ワーク・ライフ・コミュニティ・バランス推進宣言」をしているのも生駒市だけ。

市長 コミュニティまで入っているのは生駒市だけです。

記者 よく分かりませんが、「ワーク・ライフ・コミュニティ・バランス」というのは、こういう言葉が、世間的には普及している言葉ですか。初めて聞いたんですけど。

市長 この考え方自体は、色々な本でもあります。4つのボールという言い方もあります。仕事と家庭とコミュニティと自己研鑽みたいな。

記者 労使が推進しようという協定を結んで、結んだのが今日。

市長 今、ここで結んだ。

記者 それを宣言したわけですね。

記者 この(2)の「個人のアニバーサリー休暇」の取得促進はこっちのA3の紙のどこに書いてありました。

市長 A3の方の紙はいくつか具体的な事書いてるんですけど、個別の具体的な事全部を書き切ってるわけではないので、それでこちらの紙を配っている。

記者 こっちは、署名してるものだから。この書名に無いものをするっていうのも。

市長 無いわけではない。時間外の縮減と年次有給休暇の計画的取得と2番目にありますよね。そこです。

記者 出来れば、明文化してほしいです。

市長 これだけ具体的に書いてる協定書も多分珍しいとは思いますが。アニバーサリーまで書ききれば良かったんですけど。

記者 良いことはね。

市長 具体的な事はどこも書いてないと思います。他も。

組合担当者 組合の方から提案もさせてもらって、なかなか年休を取るきっかけいうのも無ければ年休も取りにくい所もありますので、これをする事によって年休の消化率を上げていきたいと。これに限らず、いろんな事でやっていきたいと思います。

記者 1番の“労使の連携による具体的な取組みの推進”の中で組合側が特に強くを求めていたのはどれなんですか。

組合担当者 ノー残業デーの徹底であるとか、休暇制度の取得促進であるとか、心身のヘルスケア。メンタルの面で、先程、職員数の話もありましたけども、それだけメンタル等々で職員が休むとなれば、それで実質的には職員数が減になって、それが職場で負担になってきますので、それはならないようにと思っています。

記者 2番の“コミュニティ活動（地域活動）の推進で”組合が要望しているのは何ですか。

組合担当者 これは、市長の方からご提案いただいたので、協力はしていきたいと思います。ただ、組合以前、災害復旧等支援活動ということで、これは組合から提案させてもらって、こういうのもしてきたんですけども、かつて東日本大震災の時に組合からボランティアを3人ほど派遣させていただきました。広報の課長も当時組合員でしたので東北の方へ行っていただいたということもございますし、熊本の地震の災害も防災安全課の組合員を組合から1人派遣させていただいた。それは広報紙にも記事として大きく載っていたと思います。後は、学校行事とか地区行事にも参加促進なんかも、これはしなくても公務員というのは割りとそういう所に来いと言われる事が多いですので、学校のPTAの役員とかそういうことをすることも多いですので、こういう事も入れさせていただいてるという感じでございます。

記者 コミュニティ活動の(2)のところの市職員による地域貢献活動報告会の実施なんですけど、具体的な日程とかいつぐらいとか。

市長 日程はまだです。まだなんですけど、色々な活動をやっている職員とかの話の聞いたりとか、あと市外のスーパー公務員と言われるような人とか、どんどん地域に出て活動しているような方を生駒市に招いて、勉強するようなオンリーワン研修という名前なんですけど、そういうのをやっていますので、全く無いわけではないです。ただ、今回こういう位置づけで、例えば市の職員で地域で何か活動している人の報告会というものを改めてやろうかということで、日程はまだなんですけども。

記者 取材に伺うことは可能でしょうか。

市長 もちろん。オープンにしない理由は何も無いので。その時は、またご報告させていただきます。ご紹介します。

記者 「ワーク・ライフ・バランス」ということを求めてたとおっしゃってて、コミュニティが入ったのは、副業の規定に因んでるからなんですか。

市長 それもあるんですけど、さっきあったように元々ボランティア休暇を積極的に取りたいとか、そういう話が元々組合側からもありましたから、先程の執行委員長からの話は「ワーク・ライフ・バランス」の話がメインではありましたが、ただ、コミュニティという話も組合からももちろんそういう話が以前からもありましたし、それを今回、副業の話をきっかけに、それならコミュニティも入れようということでそこは合意をしたという流れです。

記者 この話は、いつこの協定を結ぼうという話はいつ頃お互いに具体化したのですか。

組合担当者 具体化したのは、ひとつはイクボス宣言をされたということがあるんですけど、やっぱりそれから、当時は組合として「ワーク・ライフ・バランス宣言」というのをしたらどうですかと話をさせてもらって、そこからちょっとずつ進んでいって今日に至ったという形でございます。

記者 一応、形としては組合側からアプローチが。

市長 きっかけとしてはそうです。

記者 それに対して市長側がコミュニティも入れてやりましょうかという。

市長 初めはイクボスからスタートして、ワーク・ライフ・バランスの話が中心になったんですけど、とにかく、さっき言ったようにふわっとしただけの協定は嫌なので具体的な例で行きましょうかと言ってるうちに副業の話とかコミュニティの話が入ってきたという感じです。半年くらい調整しました。

市担当者 先程の組合員の話で人数が係長級以下が653人います。その中で先程申しました企画部門とか組合から外れる者が27人居りますので、分母としては626人になります。

記者 あと、源藤さんに簡潔に、この宣言を受けてこうしたいみたいな事を簡潔に。

市担当者 生駒市に勤める職員、管理職を含めて、これを進めていきたいと思っております。

記者 「これ」ってこの宣言の事。

組合担当者 そうです。全員でなければ出来ないのでからね。さっきも言いましたけど、かたや忙しい、かたはゆっくりのんびりしてる。これではダメです。みんな同じチームでやるのが普通だと思っております。

記者 労使で結んでいるときの市側は課長補佐級以上の方たちはこの宣言からは外れるんですか。

市長 いや、そんな事ないですよ。

記者 労使っていうのは労働組合を指しているんですか。市職員を指しているんですか。この場合の労使宣言の労使って。

組合担当者 労は組合でさせてもらってますので、市長と委員長でさせてもらってますので労は組合で使は市長になります。

記者 そしたら、それ以外のさっきの 626 人以外の人たちは厳密に言うと加わってないんですね、この人たちは。

市長 そんな事無い。

組合担当者 こちらとしては、市長が宣言しておられますし委員長も宣言してはしますが、市長が宣言に署名されてるということで、市長の従える副市長以下みんなの職員がこの対象になるという感じで聞いております。

市長 市長の私も当然、ここにいる全員が対象です。私 1 人と組合の方とやってるわけではないので。当然管理職全員です。イクボスも。

記者 使には市長以下管理職まで含まれる。それでイコール、それに伴って全員という事。

市長 はい。

記者 気になるのがコミュニティ活動を推進するということで、この間も副業推進であったんですけど、それが逆に職員にノルマみたいなものには。

市長 さっき説明しましたし、委員長ともその話もしてはしますが、土日の時間の過ごし方というのは要は自由なわけです。我々からすると、組合も一緒だと思いますけど、要は本業で決められた時間にきちんと本分を守ってしっかりと職員として仕事するという事はもちろんやらなければいけない。それ以外の土日の過ごし方とか夜の過ごし方というのは、当然色々な事があって、趣味をしてる人もいれば、ゆっくり寝ていたい人もいれば、地域活動をしたいという人もいるわけですけど。それを地域活動をみんな絶対やらないといけないというようなものでは元々我々考えてません。副業というお金の話が絡んでいるから地域活動がちょっとやりにくいこともあるかもしれないということで基準を出しました。我々都道府県の職員でもないし国家公務員でもないのでも市町村職員である以上は色々な形で地域に参加していく、関係を持っていくというのはとても大切なことだとももちろん思うし、もちろん異論ないと思うんですけども、その中でどう土日を過ごすかというのは、もう個人の自由だと思います。ただ、こういう地域に少し目を向けてというのは市民のみなさまにもそう思ってもらいたいんですけど、そう言う以上は私も含めて市職員というのは地域に出て行くという事をやっぱり頑張ってやっていきたいなあという、そういう趣旨ですので、何ら強制するものでもないし、そういうものだったら組合から「コミュニティ」って今回の宣言に入れてもらえてないから。

記者 コミュニティというのは、市職員は市外に住んでる方もいますよね。その市外のコミュニティ

も指しているんですか。

市長 もちろん、それでもいいと思います。この間の副業は、とりあえず生駒市内の活動というのに限定しましたが、もちろんここでコミュニティの活動するということで推奨したいというのは、別に市外に住んでる人がその地域でやってもいいし、生駒市に住んでる人が逆に面白い地域があったらそこに行ってみようという事も有りだと思います。

2. その他の記者会見内容について

【説明】

〔プロ棋士がやってくる！将棋芸人もやってくる！「将棋フェスティバル」を開催します〕

市長 本日、私からは2件でございます。1件目が「将棋フェスティバル」ですね。奈良県が今年、会場になります国民文化祭、また全国障害者芸術文化祭の奈良大会の一環のイベントとして生駒市では「将棋フェスティバル」を開催をするということになっております。

将棋とか囲碁とか、非常に最近生駒市では生涯学習・文化・歴史等の関係は力を入れて進めておりますけれども、昨年からは将棋も市長杯とか確か子ども向けだったりとか力を入れてやってきております。囲碁も非常に熱心にやっておりますが、今回は将棋のフェスティバルということで下の四角の所にございますけれども9月9日の土曜日と、10日の日曜日の2日に分けて行います。

具体的に9日は将棋大会・将棋講座行うということで、10日は色々中身がございましてプロ棋士の山崎隆之八段と畠山鎮さん、昔、将棋少年だったので畠山さんもよく知ってるんです。畠山七段に寄る席上対局。芸人さんでシャンプーハットのでつじさんが非常に将棋がお好きだということで来られるということでございます。

その他、将棋の駒の製作の実演でありますとか、障がいをお持ちの方の作品の展示とか、少し、そういう障がい者の方の作品展示なんかも入れながら、将棋のフェスティバルをやっていくということでございます。

山崎八段なんかは特にトッププロの1人だと思いますし、非常に解説なんかでも人気のある棋士でありますので、かなりの市民、市外からも来られると思います。もし、よろしければ、ご都合付けば、ぜひご取材もいただければという風に思っております。これが1点目です。

〔「本棚のWA」第2話は、図書室でクラシック音楽を『秋の日のヴィオロンの』を開催します〕

市長 2点目が「本棚のWA」の第2弾でございます。先日、生駒駅前図書室で地ビールの回をやりまして、非常にたくさんの市民の方にも来ていただいて、ネットなんかでは大きな反響がございましたけれども、第2弾ということで今回は、生駒市内にお住まいの関西フィルハーモニー管弦楽団のヴァイオリン奏者の齊藤清さんに来ていただきます。

齊藤さんは、長年鹿ノ台で定期的な演奏会をされてたりとか、昨年度からは市民みんなで創る音楽祭の一環として、そのコンサートをやっていただいたり、先日は生駒市役所の1階ロビーで演奏もしていただいた方が、この齊藤さんであります。齊藤さんをお招きして、もちろんご演奏もいただきますし、このヴァイオリンの奏者を目指されたそういう思いでありますとか、裏話でありますとか、そういうお話を聞いたりしながら、また、生駒市の図書館にある本なんかをヴァイオリンあと音楽に関係する本なんかも紹介しながら、素敵な一時にしていきたいという風に思っております。

今回は、9月3日の日曜日10時から生駒駅前図書室で行います。ご取材の方、ぜひ、よろしくお願いしたいという風に思っております。

あと、関連ではありますけども、せせらぎでも南の図書館でも、お酒ですね。上田酒造の上田さんをお招きした、これに似たイベントを南のコミセンでも行います。8月2日に報道資料で投げ込みをさせていただいてますけども、9月16日に行うんですが、南の図書館“未在亭”というので地ビールではなくて、こちらは日本酒のイベントですね。市民のワークショップからスタートしたこの「本棚のWA」の取組みが駅前図書室では第2弾になりますし、駅前図書室をちょっと飛び出して今度は南でもやっています。お酒をいただきながら、お酒の話を聞くということで、この上田酒造の上田さんもこのヴァイオリンの齊藤さんもお喋りも凄くお上手な方なので、楽しい会になると思います。ぜひ、ご取材をいただければと思います。

前回ここでも説明したので、今回は端折ってますけど、ワークショップで出て来た提案を、ただその提案を受けて市がやるのではなくて、提案をしていただいた市民の方が実行委員会という形でやっています。そこが1つの大きなミソかなとは思いますが。ぜひ、ご取材もいただければ参加する市民の方もそうですし、ワークショップで提案した市民の実行委員会の方も大変大きな励みになると思います。ぜひ、よろしくお願いを致します。

【 質疑応答 】

〔プロ棋士がやってくる！将棋芸人もやってくる！「将棋フェスティバル」を開催します〕

記者 国民文化祭の色々な市町村のイベントがありますが、生駒に割り当てられてるのは将棋だけですか。

市担当者 将棋だけです。

記者 こっちからアプローチされたんですか。それとも県から割り当てられたんですか。

市担当者 こちらの方から計画させていただきました。

記者 それは、元々何かこんな事やったらどうですかというサンプルがあって、そこからこれやりたいと言ったのか、それとも全くゼロな状態から何か文化祭があったら生駒市はこれやりたいですと言ったんですか。

市担当者 サンプル的な物の提示というのは、特に無かったです。各市町村でそれぞれ特色ある取組みをしてくださいというところで、先程市長からの説明にございましたけれども「子ども将棋大会」というのが昨年ございましたので、少し規模を広げて国民文化祭ではフェスティバルということでさせていただくという提案をさせていただきました。

記者 生駒が将棋フェスティバルをするきっかけは、昨年開いた。

市担当者 「子ども将棋大会」がございまして。

記者 何で去年「子ども将棋大会」を開いたんですか。

市長 将棋とか囲碁とか熱心にやられている方がいらっしゃって、子どもらの大会を市長杯でというお話なんかもいただいたりして。私が個人的に昔将棋をやってたということもちょっとありますけど、将棋・囲碁文化、結構熱心に生涯学習課もやってくれてたので、それを応援しようというようなことで市長杯の子ども大会をしたということ。

記者 市長杯やったのは囲碁じゃないんですか。

市担当者 将棋だけです。

記者 将棋大会の棋士の方は何をされるんですか。審判みたいなこと。

市担当者 大会の審判と。それから敗退者の方を対象に指導対局ということで。

記者 講座の中にも。

市担当者 講座の中にも講師として入っていただきます。

記者 中学生以外は定員に達していると。

市担当者 中学生は極端に応募者が少なくて、追加募集という形です。

記者 申し込みは、どちらにするんですか。

市担当者 申し込みは将棋連盟の方になっております。

記者 関西本部。事務局じゃなくて。

市担当者 そうです。

記者 席上対局って子どもを対象に打ってくれる。

市担当者 指導対局は敗退者が子どもさんなんですけども、席上対局はプロ棋士の方がお二方壇上に上がって。

記者 プログラムで言うと、どこに当たるんですか。プログラムには盛り込まれてないです。僕の経験で言うと、子どもたちがたくさんずら一つと並んで。

市担当者 そうです。それが指導対局です。

記者 9日も10日も。

市担当者 はい、9日も10日も。

記者 この中に奈良県に縁のある方はいらっしゃるんですか。

市長 このパンフレットに書いてある、脇健二さんは、今、実際に生駒の将棋道場の方にも時々ご指導もいただいていますし。奈良市だったかな。奈良県にお住まいの方だと思います。

市担当者 奈良県在住の方、市長がおっしゃっていただいた脇謙二八段もそうなんです。

記者 市町村は。

市担当者 奈良市ですね。後、10日の日にお越しの児玉孝一八段、この方も奈良市の方です。9日の日の講座の増田裕司六段、10日の大会の伊藤博文七段、この方は大和高田市と聞いております。

記者 2人とも大和高田。

市担当者 ということで、結構県内からお越しいただくと。

記者 ありがとうございます

〔生駒市民約 2,000 人が参加！楽しみながら健康チェック 9月2日(土)、「福祉と健康のつどい」を開催〕

記者 初開催ではないのか。

市担当者 毎年です。

記者 福祉と健康のつどいについて、何かねらいは。

市長 毎年やってるんですけど、今年は体成分分析チェックとか、あと先日ご紹介した認知症を簡単にスクリーニングできるというタブレットを置いて、相談まで含めてやらせていただきます。ねらいとしては「福祉と健康のつどい」ということで、実際に、気軽に体力測定とか無料で出来る色々、歯の健

康とか、断酒・喫煙とかなかなか畏まった所に行かないような人が、他の話のついでにこういう所で話を聞いて、そういう実際ちゃんとした検診とかそういう所に足を向ける第一歩になるかなあということ、私も行くと大体一通り色々チェックしてもらったり、そういうことするんですけど。お越しになっていただければ分かると思うんですけど、むちゃくちゃ行列が出来てます。特に、文化ホールで健康診断というか、骨密度とかも並んでます。体成分分析のチェックとか。そういうチェックは無料であることもあって、今年も非常に並ばれると思いますので。そういう意味では、健康とかに関心を持ってもらう、第一歩のきっかけにはなると思います。

【「本棚のWA」第2話は、図書室でクラシック音楽を『秋の日のヴィオロンの』を開催します】

記者 「本棚のWA」は1回目の時に、すでに2回目の実施が決まっていますとおっしゃってましたが、3回目は決まってるんですか。これで年内・年度内は打ち止め。

市担当者 ございます。3回目もすでに決まっております、3回目は生駒市在住の平本さんをお願いしまして、名刺作り「吾輩は〇〇である」というタイトルで名刺でつながる「本棚のWA」ということで、平本久美子さんによる名刺に込められた思いやそれを伝えるためのデザインについてのトークと本の紹介。

記者 いつ頃の予定ですか。

市担当者 1月20日頃を予定しております。後半はグループワークと交流ということで。

記者 ちょっとまだ秋というには早い気がします。

市担当者 そうですね。多分12月1日号か11月15日号辺りで広報に。

記者 そうじゃなくて、第2話の『秋の日のヴィオロンの』とあるけど、暦の上では秋だけど、まだ暑いかと思って。

市担当者 そうですね。暦の上では秋ということで。

記者 何人くらいでした。

市担当者 お席の方は40くらいなんですけど、入って立ち見ということでは特に申し込みなくお越しいただけます。

記者 前回は何人くらい来たんですか。結構、人気あったんですね。

市担当者 前回は定員30ということでお席の都合がありましたので、29名の参加でございました。定員を超えてたんですが、当日いらっしやらない人も。

記者 前回は事前申し込みでした。

市担当者 はい、地ビールの時は事前申し込みで、倍のご応募がございました。

市長 「本棚のWA」の『秋の日のヴィオロンの』というのも前回の『地ビールが大好き』というのも、いわゆる世界の本の名作と言われるようなもののもじりで、さっきの『吾輩は〇〇である』は分かりやすいですけど。

市担当者 『秋の日のヴィオロンの』はヴェルレーヌの詩で、海潮音という上田敏さんの訳詩集がございまして、その中のヴェルレーヌの詩の落葉の詩の冒頭が『秋の日のヴィオロンの』と始まりますので、そこから取っております。ヴィオロンはヴァイオリンという意味でございます。

記者 落葉という詩。ヴェルレーヌの。

市担当者 はい、それを上田敏さんの訳詩で、海潮音で有名になっております。1回目の『地ビールが

お好き』はサガンの『ブラームスはお好き』をもじりました。3回目の『吾輩は〇〇である』は当然『吾輩は猫である』をもじっております。このように、本のタイトル若しくは文章の一節をもじったり、使わせてもらってます。それで第1話・第2話ということで回ではなく話という言葉をしております。「本棚のWA」のWAも話とか和むという字の人の和とか驚きのわとか色んな言葉をかけたのが「本棚のWA」のWAでございます。

3. その他

【行政経営会議会議録】

記者 先日なんですけども情報公開の件で、行政経営会議の市の方向性を決める時の会議の内容を、以前聞かれた時に出てきた時に最初出てきた時に全く黒塗りだったと。報道では開示ということになったということなんですけど、議事録作成について方針を変えられたとか。

市長 2つあって、今までは逐語形式のものをとってたんですけども、今はホームページで要約筆記みたいな形の物を公開を既にしています。それが1つめです。もう1つの黒塗りのの所が多かった物が一部黒塗りが残ってるんですけども、大部分を開示すると言う風に変えたのは、すでにお辞めになっておられる当時の部長さんとかがおられて、実際に文書を作成した者がいるんですが、その当時の部長さんとかが全部確認した文書ではなかったのも、そういう意味ではきちんとして本人がそういう発言をしたのかというようなところが、今となってはなかなか確認できないというようなことであったりとか、誤字脱字なんかはかなりあったりして、ちょっとその公開するには確度が低いものなのではないかというようなこともあって黒くしてたのですが、基本的にはそういう事も含めて特にこれを出して何か市政に非常に影響があるとか個人情報の関係につながるのかというような事以外のものは、やはり出していくのが時代の流れかなというような事もありまして、そういう意味では、やはり誤字脱字とか少し一言一句本当にこのその時の部長がこう言ったのかというような所も若干ありますけども、それも含めて手元にある文書ということで、公開をさせていただくのがいいかということで私の判断でそういうふうにしたということでございます。今は要約のものを都度ホームページで出してますので、情報公開はきちんとしてるといふふうに思います。

記者 出しているものは出していく。

市長 そういう事ですね。なるべく、情報公開していくというのは、生駒市の基本的なスタンスだとは思いますが、そこももう1度整理し直して出す物をもう1度見直してみたというところですよ。

記者 これまでは行政経営会議の議事録をかなり細かく誰が何を言ったかまで書かれてたと思いますけど、今後はお作りにならない。

市長 そうですね、行政経営会議だけではないんですけど、上手く言わないと非常に誤解を与えてしまうのですが、議会の議事録とかは非常に一言一句実際に議事録を取る方を雇ってプロの方が作ったりしてますし、そういう場合は作るって事だと思いますけども、本当に誰が何を言ったか一言一句本当に必要だと言う場合は作ればいいと思いますし、大体その会議でどういう議題がであって、どういう方向性の議論があって、どういう結論になりました、とかいうような事を要点をきちっとまとめれば、それで十分その職員はもちろんその市民の方にも、今こういうことで市の方が議論をしてるんだなとかいうような事を分かっていたら物であれば、必ずしも一言一句喋った言葉をそのままやるようなことまでは不要なのではないかと、そういう判断です。情報公開、それが逐語だからすごく情報公開が素晴らし

くて、要点筆記だからダメだという風には私は思っていないということです。

記者 会議の内容によってとか。

市長 はい、そうですね。全部、逐語とかやっているとそれだけで1時間の会議の議事録を起こすのに3時間とかかかったりしますから、それを全部の会議でそういう事をやる必要はないと思ってます。

〔ワーク・ライフ・コミュニティ・バランス推進宣言〕

市担当者 訂正が1点ございます。先程、ワーク・ライフ・コミュニティ・バランス推進宣言の中で総職員数817人と申し上げましたが、818人でお願いいたします。

市長 何日現在ってあるんですか。

市担当者 4月1日現在で、今も変わっていません。

(了)